第 13 回リプロダクション研究会「国境を越える身体とツーリズム」/科研費研究「女性に親和的なテクノロジーの探求と新しいヘルスケア・システムの創造」共催　資料
2011 年 1 月 22 日開催

養父母になった国際養子たち
:スカンジナビアの国際養子縁組におけるアイデンティティと親子関係

出口顯　　島根大学・法文学部／文化人類学

要旨　スウェーデン、デンマーク、ノルウェーのスカンジナビア諸国では 1960 年代後半から、国際養子縁組が行われており、今日では、出生児数や人口 10 万に対する国際養子の割合からみると国際養子受け入れ国の上位一、二位を占めるほどである。当初戦災孤児などを救うという人道主義的立場からスタートした国際養子縁組は、現在不妊治療の代替策として定着している。国際養子の多くは、アジア・アフリカ・ラテンアメリ出身であり、そのため養父母や近隣の人々と「人種」が異なることは一目瞭然である。彼らは自らのアイデンティティについてどのように考えているのか。また養子縁組がスタートしてから 40 年以上経過している現在、成人した養子の中には、不妊などのため自らが国際養子の養親になる者たちも出てきている。彼らは親子関係をどのように考えているか。報告ではスライドを踏まえて、血は水よりも濃くないけれど、血を全く無視できるわけではない国際養子縁組について述べていく。

既出論文

『誕生のジェネオロジー―人工生殖と自然らしさ 』世界思想社、1999 年
『臓器は「商品」か―移植される心』講談社現代新書、2001 年
「商品としての身体,記号としての身体--臓器移植・アイデンティティ・想像の共同体」思想 (922), pp.83-107, 2001 年
「臓器移植・贈与理論・自己自身にとって他者化する自己」『民族学研究』66（4）、pp.439-459、2002 年
「ノルディック諸国の生殖医療技術への対応におけるナショナルとグローバル」『人倫研プロジェクト NEWS LETTER』(北海道大学大学院法学研究科)2, pp.10-20、2003 年
「生殖医療技術と現代家族」『死生学研究』2, pp.163-171、2003 年
「スウェーデンの国際養子：その可能性と問題点」『産科と婦人科』72（10）、pp.1287-1293、2005 年
「ノルウェー・スウェーデンの非匿名配偶子提供」産科と婦人科 73(7)、 pp.925-931、2006 年（共著）
「ART の現状」『臨床産婦人科」vol.60, no.1、2006 年(共著：石原理)
「国際養子縁組におけるアイデンティティの問題：スウェーデンの場合」菅原和孝編『身体資源の共有』（資源人類学 9）、弘文堂、pp.295-326、2007 年
「代理母：生殖と主体」春日直樹編『人類学で世界をみる』、ミネルヴァ書房、pp.59-76、2008 年